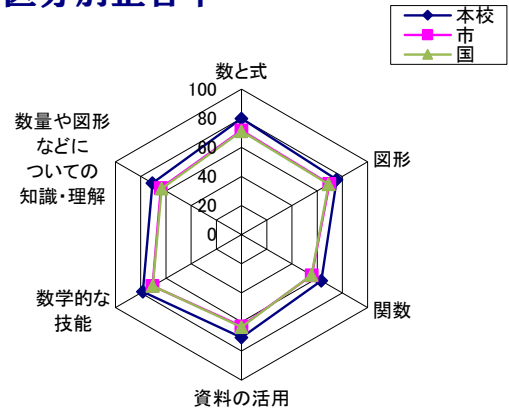


宇都宮市立星が丘中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

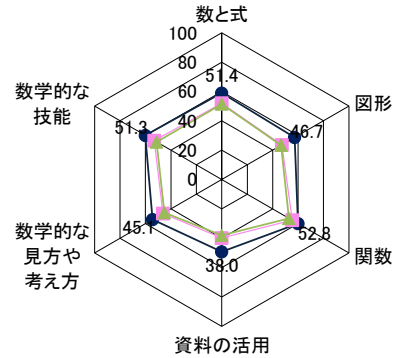
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	79.8	71.7	71.1
	図形	75.5	69.7	69.1
	関数	63.3	55.8	55.5
	資料の活用	70.7	62.9	63.5
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	78.3	70.6	70.4
	数量や図形などについての知識・理解	70.7	64.0	63.3



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	59.0	52.0	51.4
	図形	57.3	47.3	46.7
	関数	59.9	55.4	52.8
	資料の活用	49.2	39.8	38.0
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	54.4	46.3	45.1
	数学的な技能	60.2	53.1	51.3
	数量や図形などについての知識・理解			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	領域の平均正答率は、全国平均正答率と比較して、数学Aで8.7ポイント、数学Bで8.6ポイント上回っている。 ○等式の変形を行う問題では、正答率が全国と比較して21ポイント以上高く、等式の性質が定着している。 ●絶対値を求める問題では正答率が低く用語の意味を理解していない	・四則計算の順序や、加減法・代入法などの基礎を見直し、スパイラル学習を通して計算力の向上に努める。用語の意味をときどき確認する。また、言語活動を多く取り入れ、自分の考えを相手に伝える練習を継続して行っていくとともに筋道を立てて説明する力をつけさせたい。
図形	領域の平均正答率は、全国平均正答率と比較して、数学Aで6.4ポイント、数学Bで10.6ポイント上回っている。 ○角柱と角錐の体積の違いを答える問題では正答率が全国と比較して18ポイント以上高く、十分定着している。 ●図形の性質や線対称等の用語が示す操作の意味が十分に定着されていない	・図形の基礎知識を見直すとともに、図形の性質を説明するための根拠に常に目を向けさせるよう指導していきたい。特に証明の学習で筋道を立てて考え証明することや新たに付け加えられた条件の下で成り立つことを考察する力をつけたい。また、証明の必要性を授業を答えて十分に理解させていきたい。
関数	領域の平均正答率は、全国平均正答率と比較して、数学Aで7.8ポイント、数学Bで7.1ポイント上回っている。 ○座標を求めたり、グラフを選択する問題では、全国平均より正答率が大幅に高く、関数を視覚的に捉える力が身に付いている。 ●変化の割合を求める問題や、一次関数の意味を問う問題の正答率が低く、変化を多角的に捉える力が十分に身に付いていない。	・関数を活用する問題に対して、「適切な立式」や「その式の意味すること」を丁寧に確認することを通して、活用する力を育てていきたい。また、身の回りで関数関係とみることができるものは何か、という活動を行う中で、変化の様子を多角的に捉え関数をより身近なものとして感じさせたい。言語活動を多く取り入れ、説明する力をつけさせたい。
資料の活用	領域の平均正答率は、全国平均正答率と比較して、数学Aで7.2ポイント、数学Bで11.2ポイント上回っている。 ○資料の活用に関する用語を確認する問題の正答率は高く、1学年での学習内容が十分に定着している。 ●確率を求める問題では、正答率が低い。	・2年次に学習した内容の定着がやや不十分である。多数回の試行の結果から確率を求める方法を再度確認し、内容の定着に努めたい。